

大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク
日本語日本文化教育センター共催事業 開催報告
外国人研究者との異文化間コミュニケーションの実践（入門編）

本学の日本語日本文化教育センター（日日センター）と部局横断型女性技術職員ネットワークの共催事業として、「外国人研究者との異文化間コミュニケーションの実践（入門編）」と題した研修が実施され、学内8部局から11名の女性技術職員が参加しました。これは、令和3年度に接合科学研究所と日日センターの連携により、接合科学研究所の教職員・学生向けに開発された「日本語学習支援者養成プログラム」を女性技術職員向けに改良したもので、留学生や外国人研究者と接する機会の多い技術職員がコミュニケーションをより円滑化するために英語に加えて日本語を介したコミュニケーションについて学ぶものです。令和4年6月に実施した第1回の“話し言葉における〈やさしい日本語〉”では、実際の現場でやさしい日本語を使用する力を養うことを目標としてやさしい日本語の基本的なルールを学び、留学生との会話を題材に実践練習を行いました。続いて、令和4年10月31日に実施された第2回“書き言葉の〈やさしい日本語〉”では、第1回で学んだ基本ルールを元に、やさしい日本語で文書を作成する方法を学びました。大学内にある看板や掲示物の書き換え実践練習を終え、参加した技術職員からは、「研究室での留学生受け入れ時に役立てたい」、「日常生活の様々な場面で、やさしい日本語を使えるようにしたい」といった声がありました。

今回はやさしい日本語を中心にした研修でしたが、今後は異文化理解に関する研修等へのさらなる展開が予定されています。理系部局と日日センターとの連携という、本学の強みを最大限活かした新たな活動として今後の継続的な展開が強く期待されます。

